

## 甘しょ利用による高品質豚肉生産技術

農業研究センター 畜産研究所 中小家畜部

### 研究のねらい

甘しょの飼料としての特性を利用して、現行市販のトウモロコシ主体の配合飼料を給与した豚の肉とは一味違う高品質の豚肉を生産する技術を確立し、飼料資源の効率的な利用を図るとともに、地域特産品づくりの一助とする。

### 研究の成果

甘しょを仕上期の肉豚に4～6週間給与することによって、真っ白で硬い脂肪の高品質の豚肉が生産される。

また、肉豚を甘しょ畑に放牧すると、より自然で省力的な土地利用型養豚システムとなる。

1. 甘しょのみで飼養すると栄養分が不足するので、大豆粕92%、食塩1.5%、リン酸3%、石灰5.3%およびビタミン・ミネラル混合物1.2%からなるサプリメントを1日1頭当たり600g給与する。
2. 仕上期の肉豚の甘しょ摂取量は、自由採食で1日当たり約10kg、1日当たりの増体重は670gであった。
3. 甘しょを給与して生産された豚肉は、市販配合飼料の場合より不飽和脂肪酸（リノール酸）が少なく、真っ白で硬い脂肪の良質のものとなった。
4. 天草の委託養豚農家で、甘しょ畑に放牧飼育した場合と豚舎内で市販配合飼料を給与した場合を実証で比較したところ、肉豚1頭当たりの生産費で、放牧飼育した場合が約16%割高となったが、遊休地を利用して、より自然で高品質、かつ安全性の高い食品に対する消費者ニーズに適應した豚肉が生産され、地域特産品として期待される。
5. 甘しょ畑への放牧では、ふん尿が畑に還元されるために省力的であるが、連続使用すると土地が過肥になる恐れがあるので、甘しょの品種・系統の選定にあたってはこの点に留意する必要がある。
6. クズイモまたは菓子製造クズ甘しょを使用した豚舎内試験では、肉豚が1kg増体に要する飼料費は155円で、市販配合飼料を給与した場合の192円よりも安価になる。

表 1 甘しょ給与豚の発育と屠体脂肪の脂肪酸組成

区 分	項 目	増体重 kg / 日	摂取量 kg / 日	リノール酸含量 (%)	
				内層脂肪	腎脂肪
甘しょ畑への放飼試験				*	*
	甘 しょ 区	0.67	10.80	12.81 ± 1.86	9.76 ± 1.83
	市販配合飼料区	0.90	2.85	14.51 ± 0.67	11.71 ± 2.15
舎飼いによる甘しょ給与試験					
	甘 しょ 区	0.64	7.80	13.27 ± 1.35	9.24 ± 1.09
	市販配合飼料区	1.05	3.00	16.89 ± 0.01	14.51 ± 0.74

\*平均 ± 標準偏差



写真 甘藷畑での放牧仕上げ